

南信州広域連合第4回広域連合会議 結果報告

日時：平成30年7月13日(金) 15:32~17:18

場所：県飯田合同庁舎3階 講堂

【出席者】14市町村長、副管理者

〔南信州地域振興局〕土屋局長

〔飯田建設事務所〕松橋次長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔飯田市〕寺田産業経済部参事

〔飯田広域消防〕関島消防長・大藏消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長・加藤事務局次長補佐兼庶務係長・櫻井広域振興係長・秋山介護保険係長・林庶務係主事

1 開 会…15:32

2 広域連合長 挨拶

本日は大変ご多用のなか、また暑いなかにも関わらず広域連合会議を開催したところご出席いただき感謝申し上げます。

最初に西日本の豪雨災害に関して一言申し上げます。ご案内のとおり大変広範囲に渡り豪雨災害が発生したということで、改めて犠牲になられた皆様に対してお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様におかれましては一日も早い安心な生活を取り戻していただくようご祈念申し上げます。それぞれの地域においてもぎりぎりの対応をされたかと思う。おかげで当地域においては、人的被害を出すことなく乗り越えられたと捉えている。他人事とは思えないことが全国で起きており、気候変動に対して当地域としてもしっかりと対応していかなければならないと痛感した。

会議を始める前に飯田市の新たなメンバーをご紹介申し上げます。(寺田産業経済部参事の紹介)

また、ご案内のとおり南信州広域連合を引っ張ってこられた、副連合長の泰阜村松島村長におかれては、8月12日が任期ということもあり、広域連合会議に出席されるのは今回が最後ということになる。これまでの長きにわたる広域連合における取組に深甚なる感謝を申し上げ、立場が変わっても南信州広域連合に対してご指導ご鞭撻をいただければと思う。

本日もよろしくお願ひ申し上げます。

3 寺田産業経済部参事 挨拶

4 協議・報告事項

(1) 南信州産業活性化協議会について (資料No.1) 【説明者：高田事務局長】

① 南信州産業活性化協議会の設立について (案)

・企業立地促進法に基づく協議会としての法的設置義務がなくなったことから、南信州産業活性化協議会が解散(平成30年5月31日)。

② 今後の協議の場として

・14市町村への報告の場とともに、それぞれの自治体との連携も取りたいという飯田産業センターの意向から任意の協議会を新たに立ち上げたい。

→ 説明のとおり承認、質疑なし

(2) 在宅医療・介護連携推進協議会について（資料No.2）【説明者：松江事務局次長】

- ① 日時：平成30年6月18日（月）19：00～20：00
 - ② 協議、報告事項
 - ・平成29年度活動報告、平成30年度事業計画について
 - ・平成29年度ism-Link検証結果報告及びパンフレット、ホームページについて
 - ③ 取組報告及び今後の活動計画（要約）
 - ・8事業項目について説明
- 説明内容確認、質疑なし

(3) 飯田広域消防本部から（資料No.3）【説明者：大藏次長（以下①②）、有賀警防課長（以下③）】

- ① 平成30年「火災、救急、救助上半期統計」の概要
 - ・火災51件（前年57件と比べ6件の減少）→たき火等、屋外での火の取扱いが半数
 - ・救急3,600件（前年3,541件と比べ59件の増加）→過去最高
 - ・救助45件（前年40件と比べ5件の増加）→交通事故が多く全体の37.8%
 - ② 熱中症疑いによる救急搬送の状況
 - ・救急搬送人員（昨年同日比）35人（+3）
 - ③ 平成30年7月4日からの大雨について
 - 気象状況
 - ・大雨警報（土砂災害）発表：14市町村
 - ・土砂災害警戒情報発表：1市3町4村
 - ・雨量（累積降水量）：浪合377.5mm（最大）
 - 被害状況
 - ・人的被害なし
 - 避難発令状況
 - ・避難勧告：飯田市、阿南町、天龍村 6,013名
 - ・避難準備、高齢者等避難開始：松川町、高森町、阿南町、天龍村、喬木村、豊丘村 45,154名
 - 孤立の状況
 - ・飯田市、天龍村、根羽村（5か所）→長期にわたる孤立なし
 - 道路の状況
 - ・土砂崩落等：国道県道11か所、それ以外の市町村道45か所。
 - リエゾン（連絡調整員）の派遣状況
 - ・1市3町6村 延べ派遣人員29名
- 説明内容確認、質疑なし

(4) 後援依頼について（資料No.4）【説明者：加藤事務局次長補佐兼庶務係長】

- ① 「長寿たすけ愛講演会2018 in 飯田」 10月28日（日）13：30～16：30
 - ② 「第47回全日本天竜川カヌー競技大会」 9月2日（日）8：30～15：00
 - ③ 「人材ふれあいフェア」 9月22日（土）10：00～16：30
- 提案のとおり承認、質疑なし

(5) コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討について（資料No.5）【説明者：高田事務局長】

- ① アプローチシートのまとめ
 - ・14市町村から提出された意見を抜粋、整理（資料No.5-2）
 - ・項目3「施設のコンセプト」以降、事務局の判断でアンダーラインを引かせていただいた。
 - ・各首長から自由な意見をいただきたい。

② 意見交換

- 高森町
- ・リニア駅を中心にコンベンションや屋内体育施設の全体像がどのようなものになっていくかを示すことが必要。
 - ・コンベンションや屋内体育施設がリニア駅から離れてしまうのは都合が悪いのではないか。
 - ・(施設が) 点在するのであれば、アクセスの方法もきちんと考えていかなければならない。
 - ・J R東海への呼び掛けや県との協力体制を確保したうえで、協議に入っていきべき。
 - ・企業に頼る前に県や国の交付金、民間の補助金等を精査し、実際にやるべきかそうでないのかを議論した後に、検討委員会へ進まないか方向性が見えないのではないか。
 - ・地域特性である自然環境を活かせるような拠点施設は、地域PRも含めて個人的に必要と考える。
- 泰阜村
- ・この地域に工業メッセのようなものや国内の一流競技が出来る施設は必要と思う。
 - ・若手職員にアプローチシートを配布してみると、劇的に変わるという期待よりは地道な考えをしている職員の多さに驚いた。
 - ・若手職員からは、リニア駅が出来て人の動きを見てからでも遅くないのではとの意見があった。
 - ・飯田市の文化会館等で議論されている内容とは切り離せないと思う。
 - ・飯田市の検討内容と並行して考えていくべき。
 - ・屋内体育施設については、リニア駅に近いほうが良いと思う。
- 売木村
- ・飯田文化会館等も老朽化してきており必要ということはわかるが、利用度が少ない割に広域連合としての負担金が多くなってくると小規模町村にとっては非常に厳しい。
 - ・リニアに関する施設は、飯田市が中心となり負担金等、協力出来る範囲で協力していくほうが事業の進展が早いのではないか。
 - ・屋内体育施設については、何の競技を応援していくかをはっきりとして、それに向かって進めていくことで方向性が見えてくるのではないかと。
 - ・人口流出によって、周辺町村が荒廃してくることは危惧している。
- 天龍村
- ・アプローチシート提出にあたり、役場の課長級以上、村会議員にもご意見を頂戴した。
 - ・リニアの到来前にそうしたものに踏み切るのはいかがでしょうかという意見があった。
 - ・様子を見ながら計画を進めていくべきではないか。
 - ・地域住民が本当にその施設を望んでいるのかを精査したうえで、議論を深めていくべきではないか。
 - ・小規模町村においては、将来的に過度な負担とならないようにしていただきたい。
 - ・この地域の身の丈にあった施設にしてもらいたい。
 - ・将来的にこの南信州地域において負の財産とならないようにしていただきたい。
 - ・整備の主体について屋内体育施設の議論においては、県的体育施設を望むというところからスタートしており、国体が長野県で開催されることを目標にそれに間に合うように体育施設を建設したらどうかという話があったが、事業主体は広域連合あるいはそれぞれの市町村ということではなく、県が主体となった建設要望も続けていくべきではないかとの声もあった。
- 根羽村
- ・出来るだけ地元の住民も気軽に使える施設というのが基本にあっても良いかと思う。
 - ・飯田下伊那のなかにも色々な施設があり、座光寺に完成する産業センターの施設も使用すべきだし、飯田文化会館の機能も伝統文化の拠点として利用させていただければ

良いと思う。

- ・既存の体育館も大きさに関わらず活用していくべき。
- ・国際会議に係る大規模な施設（横浜や名古屋）はそこに任せ、当地域はある程度コンパクトで環境を活かした施設整備が出来ればと思う。
- ・リニア駅付近に施設が出来なくても、アクセスや施設の内容を考慮すればある程度離れていても良いかと思う。

下條村

- ・時間が短縮される中で、「観る」という視点や「支えていく」という視点が必要になる。
- ・ある一定の大きさは必要になるが、体育館兼用のアリーナが望ましいのではないか。
- ・時期的には国体というものが一つのターゲットになる。体育館はある程度、国体に併せて進めていくべき。
- ・コンベンションは飯田市の各施設と足並みを揃えて、ある程度分散型でも良いのではないか。例えば下條村の文化ホール等、いろいろなものを有機的に結び付けて考えてみてはどうか。
- ・宿泊施設も絡んだものとなるので、そんなに急ぐことなくきちんとしたコンセプトをもって進めてはどうか。

阿智村

- ・リニアの沿線のなかでは飯田の市街地は標高が高いので涼しいと思われる。高地トレーニングや高地を活かした施設が必要ではないか。
- ・甲府や中津川がどういったものを作るのかをリサーチして、競合はまずいと思うので、差別化をはかれる施設も大切だと感じる。
- ・飯田市が自転車でツアーをやられているように、飯田、甲府、中津川と順々に一緒に出来るスポーツの仕組みが大切ではないか。
- ・高齢化が進む中で、高齢者でも楽しめる施設も必要。

阿南町

- ・人口が減少していく中で、果たしてこのような施設が必要なのか。
- ・様子を見ながら判断していても遅くないのではないか。
- ・施設運営や維持の問題も出てくるだろうし、広域連合、下伊那そのものの考え方をしっかりと捉えたうえで、検討していく時間が無いようにならないように進めるべき。
- ・インフラと言われるなか道路の要望もしているが、道路が出来れば人口は増えてきたかといわれるとそうでもない。
- ・リニアが走り整備が進められるなかで、この地域が盛況になっていくかを考えると合点がいかない。

松川町

- ・先日、全国の市町村の2040年の人口予測が出ており、長野県下のなかでも当地域は人口が急減していく傾向が見て取れた。
- ・人口が減っても活路を見出していくにはどうしたら良いかを考えると、一つの方法論として人を動かすことだと思う。人が動けば人、金、モノが動く。そうした意味ではリニア三遠南信はチャンスと考える。人口は減るかもしれないが、必ず来る人は増える。では、その人達にどうやってこの地域のファンやリピーターになってもらうか。そうした意味では拠点施設は必要と考える。ただ、その姿が見えてこない。
- ・現存の施設とどう連携していくか、この地域の特性にあったものをつくれないうかと思う。
- ・同じタイプのものでなくても良いのではないか。
- ・現場をよく見て精査していくことも必要。

平谷村

- ・私共の小さな村は財政力も無いし、飯田市の計画を応援していく形が一番良いのではないか。
- ・屋内体育施設については、つくる場所等もこれから検討していかなければと思うが、

飯田下伊那の自然を十分活かされる場所にあれば良いと思うが、財政力がなければ難しいと思う。

- ・県や国で県立や国立の施設が誘致できるのであれば、皆で力を合わせてやっていけば良いと思う。
- ・地理的には名古屋に近く文化劇場やスポーツ施設がある。県内の競技等が出来る施設をみんなで考えて県立なり国立で出来る施設が良いかと思う。

大鹿村

- ・南信州全体で考えると中心地である飯田市の考え方は非常に大きい。
- ・屋内体育施設、コンベンション施設にしてもここに住んでいる人達が興味を持てるようなことを主催したり運営したりしていくべきではないか。
- ・規模的にはあまり大きくない形で、屋内体育施設とコンベンション施設は別々が良いと思う。
- ・ある程度絞られたなかでの研究や勉強をあまり大きくない施設でと考えている。

喬木村

- ・コンベンション施設、屋内体育施設とも地域外から人を呼び込んでくるという発想でやるならば、どういうことが想定されてどれくらいの人が寄られるのかというマーケティングをしっかりとやらなければならない。
- ・規模の話でいうと、個人的には身の丈にあったものをつくっても人は呼べないと思う。
- ・この地域以外の中間駅、例えば山梨の甲府には大きなコンベンション施設もあるようだし、名古屋には名古屋港に、東京には立派なコンベンション施設があるなかで、わざわざこの地域で会議をやるような必然性のあるテーマが見い出せるかが勝負。
- ・屋内体育施設については、勝ち目はあると思う。飯田市にいろいろな大会で来て、駐車場が無いという話を中学生の団体からよく聞く。各町村で立派な体育館はあるが、核になる体育館がない。
- ・大型の体育施設が必要かどうかということだが、あるに越したことはないと思う。あるのであればリニア駅から近い場所が良いと思う。そこで大きな大会をすることになっても、飯田にはリニアの各駅停車で1時間に1本しか来ない。最大輸送能力は1,000人ともいわれている。イベントに来てくれたお客様が乗り遅れたらどうするかといった問題やそのお客様が泊まる場所といったアミューズメントの整備もしていかないと沢山の人が来てくれる地域にはならないと思う。
- ・課題を一つずつつぶしていくなかで、考えていかなければならない。
- ・規模やお金の問題、将来負担をどうするか等を考えていくなかで決断が必要。

豊丘村

- ・千載一遇のチャンスがこの伊那谷に訪れ、さらには三遠南信も入ってくる。もちろんいろいろな状況もあるが、この地域がどう変わるかということは誰にもわからない。
- ・飯田下伊那の群市民の皆様に、夢を見てもらい元気な地域づくりをするのが、私たちの務めである。
- ・ビジョニングという言葉があり、何かを出そうとした時にはそれが本当にうまくいったときの未来を考えて現在に落とし込んでくることによって、今何が問題で何をしたら良いかということが見えてくる。
- ・出来ない理由を探していたら何も決まらない。豊丘村はダーチャでスタートを切っている。
- ・コンベンションホールや屋内体育施設については、凄まじい可能性があるが、それを自分たちだけの力ではなし得ない。
- ・都市部の先進ノウハウのある企業や出資能力のある企業はしっかりと考え動き出している。
- ・例えば土地にしてみれば、ここはただ同然。どういう形の運営主体にするかということと、どういうものをつくるのかということをも今のうちから相手を捕まえながら、地

元、県、国、民間も巻き込みながら、成功する可能性が一番高いものを考えながら、今から何かを起こすことが必要だと思っている。

- ・この地域は住みやすいので、リニアが通れば人は増えると思う。

連合長

- ・スーパーメガリージョンのなかに飯田市が入ってくるということは、今までにない環境変化が起こるといったことは誰しもが認めているところで、それがどのような環境変化になるのかを見据えて、あるいは先手を打ってどう対応していくかが問われている。
- ・しかし夢物語のようなことを言い、なんでもかんでも大きなものをつくれれば良いという話ではないことは恐らく皆が思っている。
- ・将来像をきちんと描いてそこへ向かってどう動いていくかという考え方をしないと、こうした事業は立ち上がっていかない。
- ・今の右肩下がり時代では、将来なんとかなるという甘い考えでは失敗する。
- ・飯田下伊那は魅力があると思っている。「里山リゾート」という表現をしたが、例えば山梨等と比べてこの地域がどういう特徴があって、他の地域からみてどう見えるか、この地域の中だけで議論してはなかなか見えてこない。
- ・外からの目や専門家に見てもらい、自分たちの立ち位置を客観的に見ていくことが大切。
- ・具体的にコンベンションが良いのかコンベンションアリーナが良いのか等、いろいろ出てくるとは思うが、当地域がおかれている立ち位置をしっかりと確認したうえで、そのためにこの地域がリニア三遠南信を見据えて何をしていたら良いのかをしっかりと考えるべきである。
- ・飯田市が行っているホールとの関係であるが、老朽化している施設について建替あるいは整備、統合していくという検討のなかで並行して考えていかなければならない。飯田文化会館にあっては建替を考えている。中央公民館等、県の文化センターについては、今回の広域連合の検討を踏まえながら、連動して考えていかなければならない。
- ・いずれにしても足元をしっかりと見つけながら、なおかつ将来を見据えての今やるべきことを考えながら、複眼的な目をもってやっていく必要がある。
- ・片目で見えてしまうと、当地域のポテンシャルを見失ってしまう。
- ・しっかりと両目を開いてこの議論を深堀できればと思う。

(その他の意見等)

泰阜村

- ・広域連合がリニアに向けて100億円くらいのお金を投資しようとするくらいのお話をしてもいいかと思う。10億円ずつ返しても10年で返せる。5億円ずつなら20年。

高森町

- ・前に進む方向性を持っていかないといけない。コンベンションの話では、飯田の文化会館とセットで考えていくということであれば、一旦はコンベンションアリーナという複合施設に着地をして、なんらかの提案を受けたり、今後の発展性があるものなのかということを含めて考えていくべきではないか。
- ・リニアの駅から離れていいのか近くで良いのかというところは出来ればそろそろまとめたいほうが良い。
- ・個人的にはリニアの駅に直結、そうでなければ若干離れた位置くらいで整備していかないとリニアの駅との相乗効果が生まれないと考えている。そこにプラスアルファ地域の拠点を持つことなど、そういった発想を考える時期にきているのではないか。
- ・そうした意見を着地点として検討委員会へ提案するのか、県に要望活動をしてお金をくださいという話をするのか、企業を回ってみるとか、次のステップへ進んだほうが良いのではないか。財源のことも考えないといけない。

地域振興局長

- ・市町村の皆様の相談には乗りたいと思う。本日の皆様のご意見を聞いた限りでは、コ

ンセプトは何なのかが見えてこない。

- ・リニアによって何がかわるのか、地域の特性をしっかりと踏まえてもう少しコンセプトを固めないで議論が拡散しているように感じる。

- 副管理者
- ・今回、アプローチシートを出した狙いとしてコンセプト、何のために作るのかだとか他との強み、差別化はどこにあるのかということ掘り下げたいという意図があった。今回の議論はその意図の手前のところで意見交換がなされたかと思う。
 - ・コンセプトの部分ではもう少し掘り下げた議論がしたいと思っているが、そうした意味でのスケジュールをもう1回組み直して、改めて提案させていただく。

- 阿智村
- ・リニアのビジョンについてはいろいろなところで議論されているが、コンベンションや体育施設にあっては各市町村で議論されている状況。経済界がどう考えるかや専門家の意見を聞く機会も大事。

- 連合長
- ・本日のところは副管理者からも話があったが、こうした形でアプローチシートを提出いただき首長間で意見交換をしていただいた。コンセプトの深堀については、これからやっていきたい。

(6) 南信州地域振興局から

- ①「リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスに係る意向調査の結果」について
 - ・二次交通が重要
 - ②「南信州就活セミナー」について
 - ・保護者向け：8月4日（土）9：30～12：00 南信州・飯田産業センター
 - ・学生向け：8月7日（火）13：00～16：00 南信州・飯田産業センター
 - ③「インスタグラムを活用した南信州地域の観光推進」について
 - ④「大雨災害の被害状況」について
 - ・農地8か所：1,400万円
 - ・農業用施設3か所：900万円
 - ・山地災害16か所：7,800万円
 - ・林道22路線114箇所：6,260万円
 - ・7月8日（日）飯伊消防技術大会中止について
- 説明内容確認、質疑なし

(7) 飯田建設事務所から

- ・大雨災害に係る土砂崩落等39か所（国道152号線は現時点で復旧見込立たず）
- 説明内容確認、質疑なし

(8) 飯田保健福祉事務所から

- ・南信州地域の健康課題について
 - 近年、脳血管疾患の死亡率が急増している。
- (質疑、応答)
- 根羽村：説明中、有意に高いや低いとあるが「有意」とはどういうことか。
- 事務局長：統計学での考え方。例えば10人中2人に何かあったとして、別のグループでは10人中4人に何かあったとすると、4人のが多いというのは統計学的な考え方ではない。例えば100人のうち20人、100人のうち40人という差だと統計的な有意差が出る。母体数の多さ。

→ 説明内容確認

5 松島副広域連合長挨拶

6 今後の日程について

8月 9日（木） 南信州広域連合議会運営委員会 10:00～ 501号会議室

7 閉会…17:18